

## トピックス

### 季節予報と今年度の梅雨予報

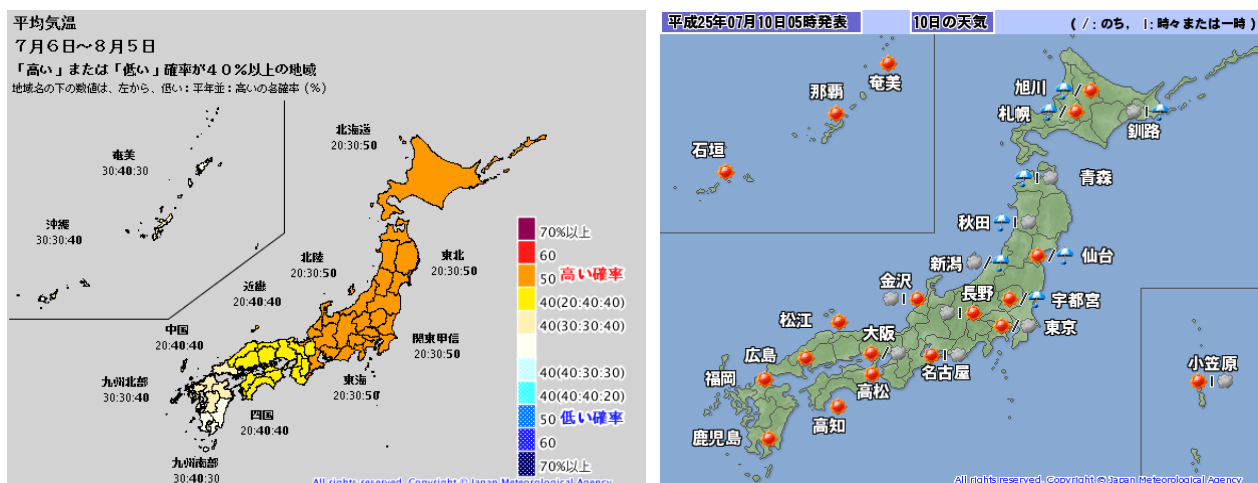
気象庁では向こう1か月から3か月間の天候を予報対象とする季節予報の発表をしています。本SENSORでは、季節予報の概要（天気予報との違いなど）と現在気象庁が発表している季節予報に関して記載いたします。

#### 1. 季節予報について

気象庁では、向こう1か月から3か月間の天候を予報の対象とする季節予報を毎月定例日に発表しています。

本予報では、〇月×日の天気は「晴れ」「雨」といったように断定して予報するのではなく、1か月間の大まかな天候がどのようになるのかを予報します。「向こう1か月間は曇りや雨の日が多い。」「3か月を平均するといつもの夏より気温が高い。」というように1日1日の天気や気温の変化ではなく、当該期間の大まかな天候が1か月予報の対象となります。

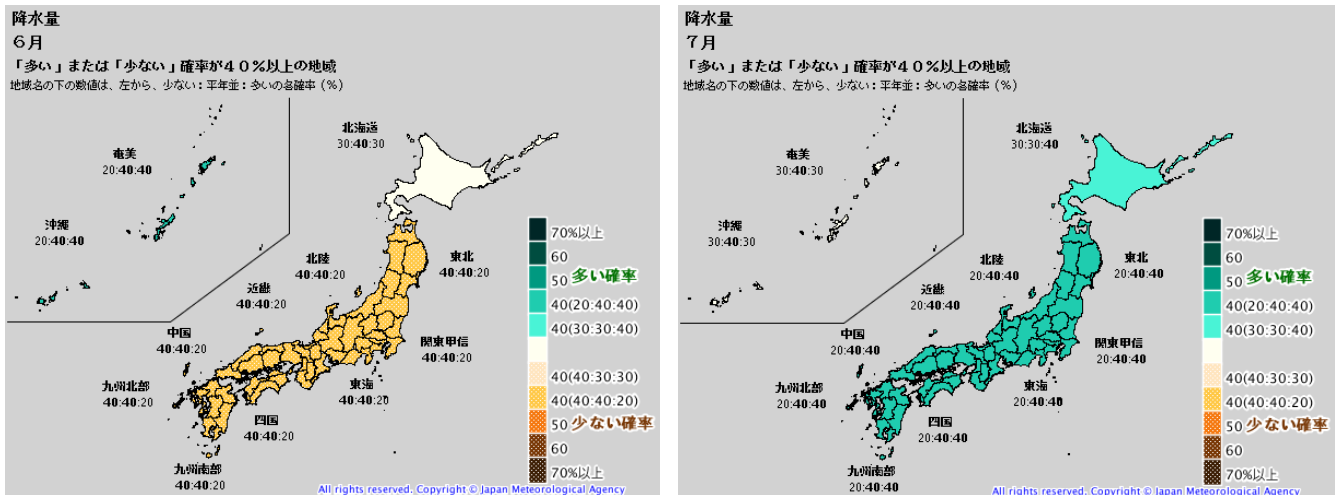
天気予報の予報期間は長くても1週間程度ですが、季節予報は、予報期間が1か月以上と長いため予報が難しくなります。そこで、予測の不確実性を表現するために確率表現を用いています。具体的には、「明日の最高気温は25度です。」といった断定的な予報ではなく、「今後1か月の気温が「高い」となる確率は50%です。」という表現で発表しています。



図表1 季節予報と天気予報の表現方法の違い（左：季節予報、右：天気予報）  
（出典：気象庁HP）

## 2. 2015 年の梅雨時期の降水量予報

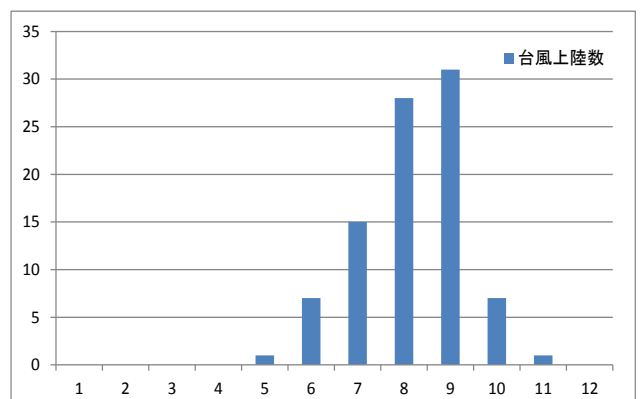
太平洋高気圧が平年より強く張り出している影響で、2015 年の梅雨入りは全国的に遅くなる見込みです。沖縄では5月20日に梅雨入りしましたが、これは平年より11日、昨年より15日も遅くなっています。九州地方から関東甲信にかけては平均して梅雨入りは6月8日頃で、梅雨明けが7月20日頃ですが、今年度は10日前後後ろにずれる可能性があります。このため、気象庁の季節予報の降水量予測では、図表2の通り、九州・四国・本州にかけて、6月は降水量が少な目になる可能性が高く、7月は降水量が多めになる可能性が高いと予報しています。



図表2 2015年6月、7月の降水量の季節予報  
(出典：気象庁HP)

梅雨によってもたらされる降水量が平年より6月で少なく、7月で多いという予想ですが、7月は台風の本土への上陸数が6月よりも多い月でもあります。(図表3は1980年～2013年の34年間の月別の本土への台風上陸数です。)

今年は、例年に比べて、7月の梅雨による降水量が多く、降水で地盤が緩くなったところに台風が上陸する可能性が十分考えられるため、その場合には地滑りや土砂崩れに十分に警戒する必要があります。ちなみに、2015年は5月末現在で台風が7つ発生しており、これは観測が始まった1951年以来2番目に早いペースです。  
(最多は1971年で5月末までに9個発生しました。)



図表3 1980年以降の本土への月別台風上陸数  
(出典：気象庁HPを基に東京海上研究所作成)

### 【豆知識】予報と予想、予測の違いについて

気象庁によれば、**予報**とは「観測の成果に基く現象の**予想の発表**」と定義されています。また、広辞苑では**予測の定義**を「将来の出来事や有様をあらかじめ**推測すること**。」**予想の定義**を「ある物事の今後の動きや結果などについてあらかじめ**想像すること**。」としています。予測はある根拠に基づいて将来の事象をおしはかり、予想は根拠のあるなしに関わらず将来の事象について見当するというニュアンスがあるようです。

### 【参考文献・ホームページ】

・気象庁ホームページ：<http://www.jma.go.jp/>